

会報七月号 世界観を掴む(その二)

目次

- ・ 世界観
- ・ 根本原理 (陰陽相補原理)
- ・ 大宇宙 (世界) の構造
- ・ 大宇宙 (世界) を構成する秩序
- ・ 指導原理

● 世界観

前回の会報では、稽古の方針が「楽しく食欲に」取り組むと変わったと述べた。そして、己の性命をこの世の中で燃焼し尽くす為に、世界観を掴むことを勧めた。世界観とは、世の中の根本的な原理であり、全て(形而上と形而下)を統一して、成長・発展へ向かわせる実用的指導原理である。世界観を掴む為に、生命の三つの段階の世界を通して、世の中の構造を眺めてみた。

第一段階の世界とは、無限の遠心力(陰)の宇宙。その別名は「神、仏、無限、永遠、太極、大生命、無、空」である。第二段階の世界とは、無機、変化、有限の求心力(陽)の世界。その別名は「物質世界、諸行無常、浮世、人生、人の世界、大自然の世界」である。第三段階の世界とは、有機、生物、有限の求心力(陽)の世界。その別名は「生命の世界、現世、人生、人の世界」である。第二段階と第三段階に浸透している第一段階の世界の別名が「道、法、陰陽」等である。第三段階の世界で、道や法を説いて人を導く人間を、僧侶、君子、聖人等と呼ぶ。「仏法僧」とは、この第一(仏)、第二(法)、第三(僧)の世界の象徴である。

これら三つの世界は、それぞれが別個にあるのではなく、お互い入れ子になっている。そして、一つの世界はそれより小さい世界の隅々にまで入り込んでいる。また、一つの世界はそれより大きい世界の一部分を占める以上のことはない。従って、第二段階の世界とは、第一段階の世界の一部であり、第三段階の世界は、第一段階、第二段階の世界の一部なのである。

● 根本原理 (陰陽相補原理)

今回は、世界観を支える根本原理(陰陽相補原理)へと話を進める。

まず陰陽である。陰陽とは「一見すると対立や矛盾するように見えながら、よく見ると実は相補い、相親しみ、相和している結びという対立」のことである。

陰陽相対原理とは、宇宙が対立・相補という構成・秩序を有するという世界観を支える根本原理であり、それは「宇宙万物は陰陽より成る」万物は陰陽に分類することができる」ということである。

これは、あらゆる現象がこの構成・秩序（陰陽）の展開であることを会得せしめ、それによって「禍転じて福となす」為の成長・発展等、健全なる生活を設計する為の物心一如の指導原理である。

陰陽相補原理の特徴は以下のとおりである。

- 一、宇宙は陰陽の秩序を以て展開する↓全ての存在と現象は、陰陽の要素からつくられている。
- 二、陰陽秩序は太極・無限より不断に至る所に生じ、相関往来し、変化し、滅する。
- 三、陰陽それぞれは反対の性質を持つ。求心・凝縮・下降の性質を有するものを陽と呼び、遠心・拡散・上昇の性質を有するものを陰と呼ぶ。活動や熱は陽から、静寂や冷たさは陰から生まれる。
- ・（陽）の求心圧縮力は例えば、音、熱、光、重さ等の現象に現れる。
- ・（陰）の遠心拡散力は例えば、寒さ、暗さ、軽さ等の現象に現れる。
- 四、陽は陰を、陰は陽を相牽引し、推進する。
- 五、陰が陽より強ければ陰が陽を引きつけ、弱ければ陰は陽によって引きつけられる↓森羅万象間の相互の引力は、その相手との陰陽差に比例する。
- 六、陰は陰を排斥し、陽は陽を排斥する。その排斥力は、その差に反比例する。
- 七、純粋な陰又は陽なる物事は存在しない↓陰陽は全て相対的なものであり、全ては陰陽二つの性質を内包する。内包する性質のうち、陰が陽より大きなものを陰と呼び、陽が陰より大きなものを陽と呼ぶ。
- 八、完全な中性なるものは無い。必ず陰陽どちらかを多く比率で有する。
- 九、森羅万象は、陰陽両性を持つ微細なものの複雑な集合である↓宇宙もまた太極の一部に過ぎない。
- 十、森羅万象とは、その時の動的均衡を示す陰陽の集合体に過ぎない↓全ては不断の変化であり運動である。それは、太極・無限が無始、無休、無終だからであり、一つ一つの現象は、陰陽の集合体の一部を成しているからである。
- 十一、陰陽は極まれば反転する↓陰極まれば反転して陽生じ、陽極まれば反転して陰生ず
- 十二、万物はその内奥に陽を持ち、外側に陰を持つ↓陽は求心力で陰は遠心力なので、陽は中心に位置し、陰は周辺に位置するのが自然である。

## ●大宇宙（世界）の構造

陰陽相補原理を踏まえて、再度生命の三つの段階の世界の構造を眺めてみる。それぞれの段階にも当然陰陽があるので、三段階を六段階に展開することもできる。易経が、陰陽の両儀から四象、八卦、そして六十四卦へと展開させたのと同じである。

①生命の世界の六段階

六つの同心円の外側から、(1)太極・無限(全き一)、(2)光と熱(波、エネルギー、陽)の世界(第一段階の世界)、(3)大空(素粒子、陰)の世界、(4)大地(元素、陽)の世界(第二段階の世界)、(5)草木(植物、陰)の世界、(6)人間(動物、陽)の世界(第三段階の世界)となる。

②この六段階は個別にあるのではなく、お互いに交錯し、お互いに入れ子になっている。一番大きな世界である(1)は、無限大の元宇宙であってその限界はない。

③これらは平面の円というより球形である。但し、最も大きい世界(1)は無量大であるから輪郭ははっきりしない。

④一つの世界はそれより小さい世界の隅々まで入り込んでいる。つまり、一つの世界とは、それより大きい世界の一部分になっている。

⑤大小隣り合う世界は反対の特徴を持っている。つまり、陰と陽になっている。これが宇宙の構造の特徴であり、秩序(陰陽相補原理)である。即ち、動くものと動かないもの(人間と草木、動物と植物)、大地と大空、光と暗闇である。或いは、動かないものと動くもの、草木と大地(地球)、大空と光：という組み合わせになっている。

⑥この六つの世界のいずれか一つを取り出すと、その中にもこの対立的相補的な傾向が見出される。例えば、

・「光」の世界↓可視光線と不可視光線、明るい動的な刺激的な光(黄、橙、赤)と穏やかな静かな非刺激的な光(緑、青、藍、紫)、可視光線と紫外線、可視光線と赤外線等。

・「大空」の世界↓明るいと暗い、遠心力と求心力、見えるもの(雲)と見えないもの(風)等。

・「大地」↓山と川、陸地と海、極地と熱帯、昼と夜、暑さと寒さ、速い(地上表面、赤道付近)と遅い(地球の中心、極点付近)等。

・「草木」↓草と木、根っこと幹、幹と枝、枝と葉、葉と花、花と実、果実の果肉と種子、種子の皮と芯、横に伸びる草木と縦に伸びる草木等。

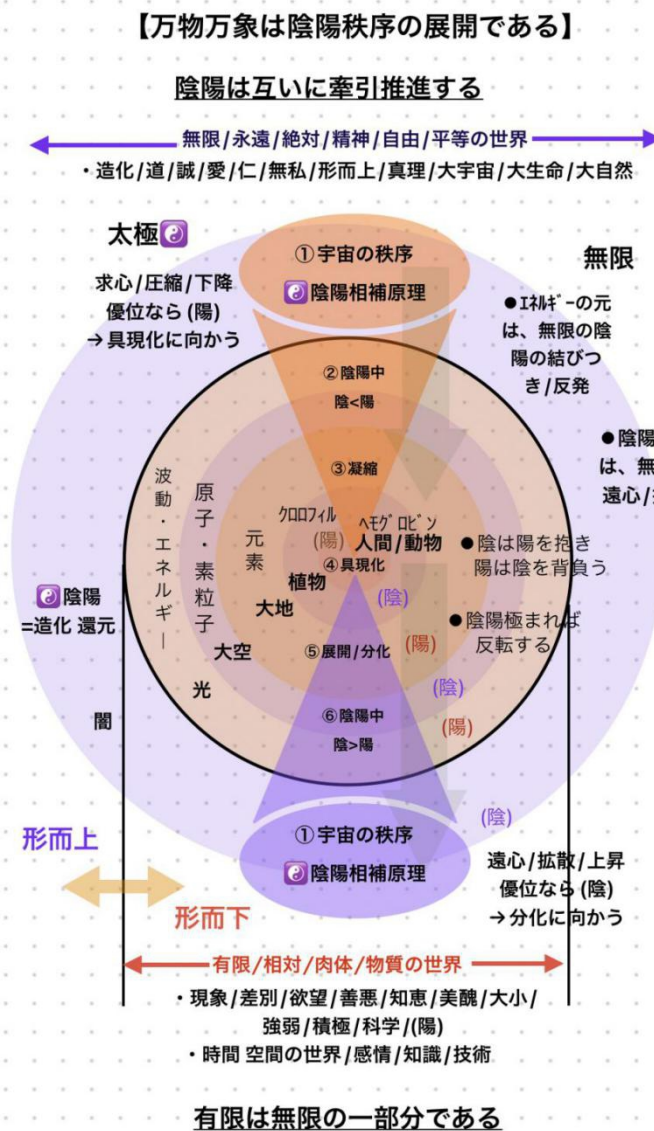
・「人間」↓男と女、肉体労働と知能労働、支配者と被支配者、指導者と追順者、労働と休息、愛と憎しみ、血と涙、戦争と平和、幸福と不幸、病氣と健康、生と死。静かな頭と動き回る足、臓と腑、骨と肉、肉と血、白血球と赤血球、爪や毛のような植物性のもと筋肉のような動物性のもと、交感神経と副交感神経、緊張と弛緩、精神と肉体等。

⑦以上のような対立・相対・相補は六つの各世界のいずれの一つを取ってみても無限に展開し、最後には陰陽の電子の世界が開ける。更に引いて見ると、大宇宙は有限

界（形而下）と無限界（形而上）の対立・相補として捉えられる。絶対と相対の世界である。もっと引いて見ると、有限界（陽）は限りなく小さくなって無限界（陰）だけとなる。有限は無限の一部に過ぎないからである。

● 大宇宙（世界）を構成する秩序

大宇宙を構成する秩序は陰陽相補原理に基づく。秩序とは「命令」を意味する。「命」は天であり陰であり、「令」は地であり陽である。天が陰で地が陽であるという部分は「易経」を学んだ人にとっては違和感を覚えると思う。ここでは、陰の本質を遠心力・拡散であり、陽の本質を求心力・凝縮であると捉えて配置したので、そういうものかと受け流して欲しい。



これは、日本神話の「古事記」でも説かれている。大宇宙・無限を「天御中主神」、陰陽の秩序を「高皇産靈神」「神皇産靈神」の二柱で示し、この造化三神は皆「隠身なりき」（見えない神々、原理、秩序）と説く。キリスト教も儒教も道教も、この大宇宙の秩序やその掴み方、そして生き方を説くものである。武道、茶道、華道等、「道」と呼ばれるものも、皆この秩序を技術や作法や知識の根本原理として伝えるものなのである。

道（みち）とは、天と地の間に「満ち（みち）」ているものであり、陰陽の秩序であり、大宇宙の根本原理に徹することであり、そして、造化の具現化を図ることである。そして、道を会得するための「行」とは、日常の立居振舞、生活から学問、技芸、政治や戦争に至るまで、人間の行動をこの大宇宙の秩序・天地陰陽の理に合致させる

よう努力することである。この秩序を日常生活に見出すことが「修身」である。

#### ● 指導原理

陰陽相補原理は実生活の指導原理となる。それは、この大宇宙の秩序を、大宇宙が創り出したあらゆるものに当てはまると見て、全てを陰陽の歯車として見ていく方法であり、物事を権る（計画する）に当たって道を見出す方法となる。

陰陽は、相対し相補い相和す。それは宇宙の造化であり調和である。この陰陽の秩序による万物生成化育のはたきこそが宇宙の秩序である。「陰陽のどちらが先か、どちらが重要か」などと言うのは、「男と女はどちらが重要か」を議論するようなもので、何とも幼稚なことである。

結局のところ大宇宙・大生命が根本であり、そこに陰陽相補原理に基づく秩序構造があり、その働きによって万物万象は生まれ、変化し、滅し、また大宇宙・大生命へと還っていくという循環である。

人間は天地の間に生まれ、天地陰陽の理法（秩序）に包まれて生きる。この陰陽相補原理が世の中の根本原理である。従って、宇宙の秩序も大自然の秩序も、そして人間の秩序も生活も活動も、この根本原理（陰陽）の展開である。

今回はここまで。

次回は引き続き陰陽相補原理について。そしてその応用・展開について話を進める。

今月も健康と健闘を。